

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0592200091 | | |
| 法人名 | (株) 親孝 | | |
| 事業所名 | グループホーム 親孝の里 | | |
| 所在地 | 秋田県山本郡八峰町八森字中浜1-13 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年1月22日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター | | |
| 所在地 | 秋田市将軍野桂町5-5 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年3月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山などの自然に囲まれた住み慣れた土地で暮らすことが出来ます。今年度11月より医療連携、看護師連携を更に強化し(医療連携加算あり)、看取り意向確認を実施し、実際に看取りも行っています。入居後も安心してその人らしく生活できるよう支援してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

壮大な日本海と白神山地に囲まれた四季折々の自然を感じることが出来る事業所で、介護事業所としての基本的姿勢を表した明瞭な理念を掲げ、その実践に向けて管理者及び職員が日々努力をしている。医療機関との連携を図りながら看取りを行い、さらに充実を図ることが出来るよう体制整備等に努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は掲示いつでも見られるようにし、引き継ぎ時に唱和している。実際にできているかどうかの評価をこれから行っていきたい。 | 理念は介護事業所の基本的な姿勢を簡潔・明瞭な表現でスタッフが皆で考案したものであり、毎月行われる施設内研修等により理念の実践に努めている。 | 年度毎に重点目標を掲げているが、理念の実践に向けて明確な基本方針を作成し、職員と方法等を共有することが更なる実践の向上に繋がるものと期待される。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議で、自治会のことや町のことを知ることができているが、利用者が積極的に関わる機会が少ないので、行事への参加や買い物などふやしていきたい。地域の防災訓練、清掃ボランティアには参加している。 | 周囲に民家が少ないため地域住民と日常的に関わりを持つ事は難しいが、地域の行事である春の清掃ボランティア、防災訓練、町民文化祭、中学校の文化祭等に参加するなど、地域との関わりに努力をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 面会に来た方へお伝えする機会があるが、そのほかのところではあまり機会がないのが現状である。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回程度実施しており、運営推進会議の委員としても、町の福祉課職員から入っていただき、そこでの意見や要望をサービスに反映出来ている。 | 年6回の運営推進会議には、行政、地域包括支援センター、自治会長、利用者、利用者家族などが構成員となっており、事業報告のほか、施設を良くするために多様な意見が出るように会議を進めるなど、また、出された意見についてはサービスの向上に反映できるよう努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 日々連絡取れる体制にあり、協力関係を築けるよう取り組んでいる。 | 市町村担当者と業務に関する課題について、いつでも相談できるよう、日頃から連携を密にしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないことは、スタッフ全員が理解し身体拘束をしないケアを実践することができている。 | 玄関や利用者によっては個室にセンサーを取り付ける等、出来るだけ早く対応が出来るようにしており、さらに、外出や帰宅願望が強い利用者には職員が付いて行って見守るなど、拘束をしないケアの実践に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | スタッフ会議等の勉強会で学ぶ機会をつくり、スタッフとのコミュニケーションをとり、日々配慮してケアを実践しているが、言葉使いが適切でない(誤解を招きやすい時がある)場面も時々みられることがあるため、スタッフ同士で注意しあって防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在活用している人、今後必要になると思われる人がいらっしやるため、その都度関係者と連絡をとって活用出来るよう進めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を心掛けている。疑問や不安などはその時に伺い説明して対応している。わからない場合はいつでも連絡いただくと、お答え出来るよう心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議(利用者、家族もメンバーにはいる)での意見や、面会時の会話、家族へのお手紙の反応などより、意見を反映出来るよう配慮している。 | 面会は自由に行われており、面会時に出された意見や年1回の家族アンケートを運営に反映させている。また、月に1回利用者の家族に状況報告を行っており、家族の安心感に繋げている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議、全体会議、管理者会議等が出た意見等、スピーディに業務に反映することができている。 | 毎月1回のミーティングや全体会議での職員の意見は運営に反映されている。また、管理者は職員がストレスをためないような努力をしている。さらに、事業所は多種類の大きな企業であることもあり、職員の待遇改善に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 休日希望は反映できている。定数基準は満たしているが、余裕のある労働条件とは言えない。職務能力や努力に応じた給与水準の改善を今年度実施した。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外の研修を受ける機会を確保し、その力量にあった研修を受けられるよう配慮している。また、施設内の研修も定期的に行なっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は定期的に包括支援センター、社協と情報交換している、また、管理者は町の介護支援専門員が集まる会議に出席したり、相互勉強会などに参加して交流できる機会を少ないながら確保しサービス向上に努めている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前調査の時にいったスタッフが入居時にいるように心がけている。入居後も不安が軽減されるよう慣れ親しんだ生活習慣に配慮している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前にわからないことや要望など伺い、不安がないように説明を行なっている。あとからの疑問などにもお答えできるよう配慮はしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の状況に応じて、掃除、お盆拭きを手伝っていただき、生活を共にしていることを実感できるよう、配慮しているが、重度化によりそれを行える機会が減ってきている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | お便りにより、毎月近況報告をし、面会時にも報告や相談をしている。また、電話でも連絡を取り合っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 希望する病院や床屋に行けるように配慮している。 | かかりつけ医や、理美容への配慮の他、利用者の友人が施設を自由に訪問することができ、これまでの関係性の継続に努めている。又、隣接するレストランは家族との交流を深める場として利用されている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リビングでの座席を考え、問題が起きないようにしているが、利用者同士の関係上、制約があり十分でない。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後の関わりがあった方は少ないが、契約終了後も受け入れ先が見つかるまでフォローしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族と相談し、ご本人様の意向を元に性格や生活習慣を配慮して本人の意向に沿うよう努めている。 | 入所時に利用者及び家族からこれまでの生活歴等を把握している。また、職員も時間をかけながら利用者の思いを吸い上げることが出来るように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に確認することはもちろんですが、普段の生活の中でも把握できるように努め、生活や環境に配慮している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日、どのように過ごしているかケース記録に記入し、情報を共有するようにしている。また、カンファレンス等で話し合い現状把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人様やご家族の意向を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。 | 計画作成担当者を中心に作成し、現場担当者や家族からも意見を伺っている。また、3か月に1回計画に対する評価を行いながら6か月に1回見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ユニット日誌、ケース記録、を活用し情報を共有するようしており、実践に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 管理者が窓口となって関係者と相談し、支援できるように配慮している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医や医療機関は本人や家族の希望を取り入れて対応している。 | 隣接する能代市の医院を嘱託医として指定し、24時間いつでも相談できる体制にあり、また、救急医療機関への搬送もスムーズに行うことができるようになっている。また、歯科医、薬局との協力関係も良好である。さらに、2週間に一度嘱託医が利用者全員を往診するなどの体制整備を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常的に相談できる体制でいる。不在時の突発的な体調不良等の相談も対応しており、適切な受診などをすることができている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者に生活状況の情報を提供し、病院より入院時の状況把握を適宜行い、関係づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に、重度化したときに事業所ですることを説明して。また看取り意向確認を入居時や適宜行って署名していただいている。今年度11月より医療連携体制加算、看取り加算を算定できるように体制を整えた。 | 入所時に「終末期ケアについての同意書」及び「看取り看護に関する意向確認書」で本人と家族から看取りについての意向を確認し看取りを行っている。看取りに当たっては嘱託医や看護師と相談しながら職員全員で支援できる体制としている。 | 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成しているものの、重度化の状態把握や看取りの実施手順を明確にしたマニュアルを作成し、職員が情報を共有しながら、家族にその対応を明らかにすることができる手順書等の作成に期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年に1度救命救急講習の受講や消防訓練時の講習は実施しているが、経験が浅いスタッフに関しては、十分だとは言えない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 今年度は夜間想定避難訓練や津波想定避難訓練を行った。地域との協力体制が取れるよう心がけているが、一人暮らしのお年寄りも多く、地域の協力以外の災害対策も検討中である。 | 夜間を想定した避難訓練や津波を想定した訓練を実施しながら、それぞれ課題をみつけて情報を共有している。また地域から離れていることもあり、地域住民の高齢化もあって協力体制が困難な状況にあるが、中学生の協力を求めるなどして支援体制の構築に努力をしている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人にあった言葉かけを心がけているが、時折配慮に欠ける場面も見受けられる。 | 一人ひとりの意向を尊重しながら、言葉かけにも個々の性格や特徴に注意しながら対応している。 | 利用者がさらに一日の生活をいきいきと楽しむことが出来るよう、支援のあり方の工夫に期待したい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望を聞けるように配慮しているが、スタッフの都合で行なっている場合も見受けられる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | それぞれの利用者様のペースを守っている部分もあるが、体調管理のために希望に沿っていない場合もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする | 衣類など本人の好みのものを身につけていただけるように配慮している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付けやお盆ふきなどを一緒に行うようにしているが特定の人になってしまっている。個々の好みは把握しており、対応することができている。 | お盆ふきやテーブルふきは利用者と一緒に、季節の料理や旬の材料を使った献立を提供する機会を設けている。また、医療機関を受診の際は、本人の希望によって外食をするなどの機会を作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | カロリーや栄養のバランスを考慮した献立になっている。食事摂取量や水分量はチェックしてその人にあつた支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個々に合った方法で対応している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターンを把握し、自力で行えるように支援している。また状況に応じて個々対応をしている。 | 排泄チェックリストで排泄を把握しており、オムツ(2~3名)交換は利用者の自尊心を傷つけないように各室で行っている。夜間は室内のポータブルトイレを使用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を促したり、運動を促しても排便がない場合や筋力低下のために排便できない方には下剤を使用する場合がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2～3回入浴やシャワー浴を行なっている。拒否される場合は次回(翌日)に促している。就寝前に希望される方もいらっしゃるが、スタッフ数の関係でできていない。 | 週2～3回、利用者と職員が1対1で入浴を支援している。また、入浴を楽しむために入浴剤を入れたり、民謡を流すなどの取り組みも行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調をみて日中も休息できるように配慮している。また、昼夜逆転しないように心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 日々観察し、症状に変化のある場合は看護師、医療機関に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 同系列の福祉事業所へ赴き、合同で行事をおこなったり、機能訓練として体操を取り入れているが、ひとりひとりの力をまだ十分に生かされていないことが多い。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする | 受診時の時に対応していることはあるが、スタッフが受診などで不足している時は、希望に添えない場合がある。時々天気の良い日はドライブに出かけている。入居後は、スタッフや家族の方と協力して自宅に行けるよう配慮している。 | 受診時には希望によって買い物を楽しんだり、天候によってドライブをする他、同一運営事業所である「能代親孝の里」を訪問するなど外出の機会を増やすようにしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 病院への支払いを自分でしている方がいらっしゃるが、その方以外は使用するときにお渡しして使えるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙など自由にできるように配慮しているが、利用している方は限られている。また、回数が多かったり相手にご迷惑がかかる場合はスタッフがその都度配慮している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 温度や湿度、光は、季節や天気によって調節し壁や居室などは季節感が味わえるものを貼っている。ホール兼食堂、玄関等に花(鉢物)を飾っている。 | 利用者が安心して家庭と同じような環境で生活できるような雰囲気づくりに努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする | リビングでは気の合った利用者同士で談笑したりできるように席を配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | なじみの家具を持ち込んでいだけるようになっている。また、配置等は本人の希望や動線、転倒防止に配慮している。 | 利用者の居室には使い慣れた物や馴染みの物を持ち込む等、本人が安心して過ごすことができるように配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりや補助器具を取り付け、自分でできる場面を増やしている。また、見守りや声かけをして対応している。必要時にはベッドにも手すりを取り付けている。 | | |